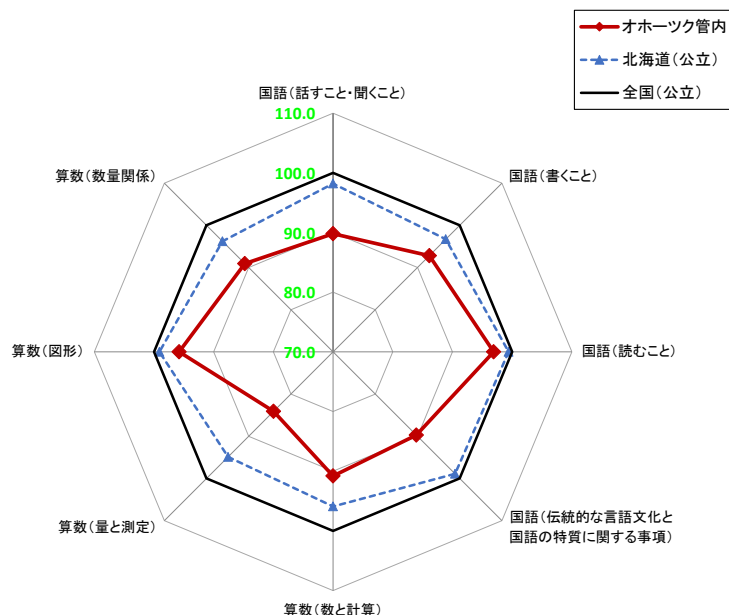


■小学校の状況(学校数:76校、児童数:1,903人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの

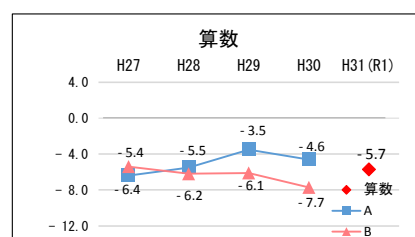
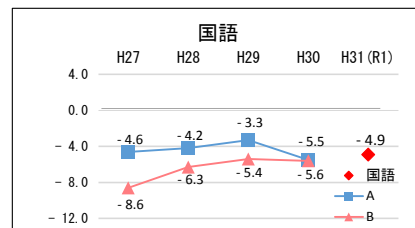
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

	国語	算数
オホーツク	59[58.9]	61[60.9]
全国	64[63.8]	67[66.6]

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

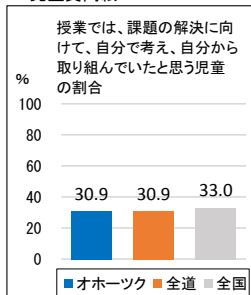


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

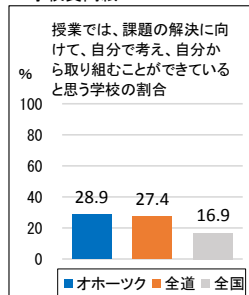
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

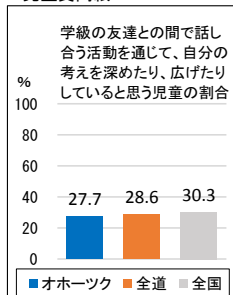
* 児童質問紙



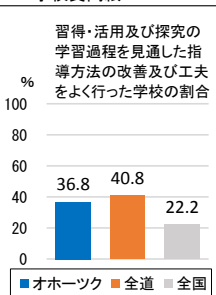
* 学校質問紙



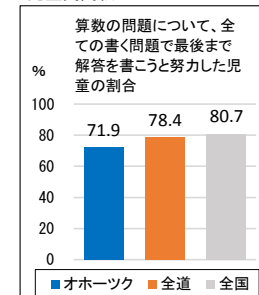
* 児童質問紙



* 学校質問紙

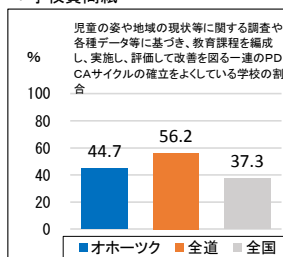


* 児童質問紙

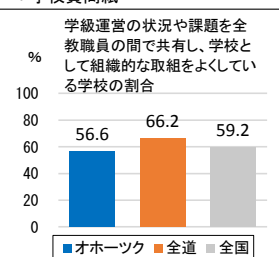


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

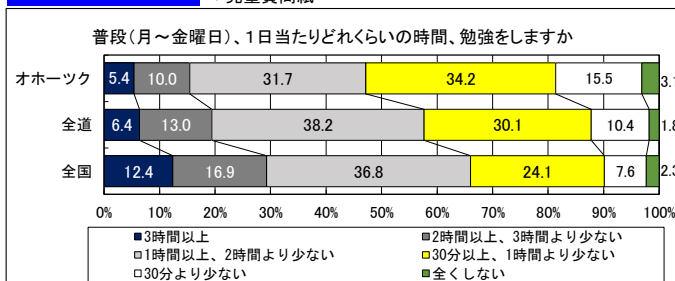


* 学校質問紙



学習習慣

* 児童質問紙



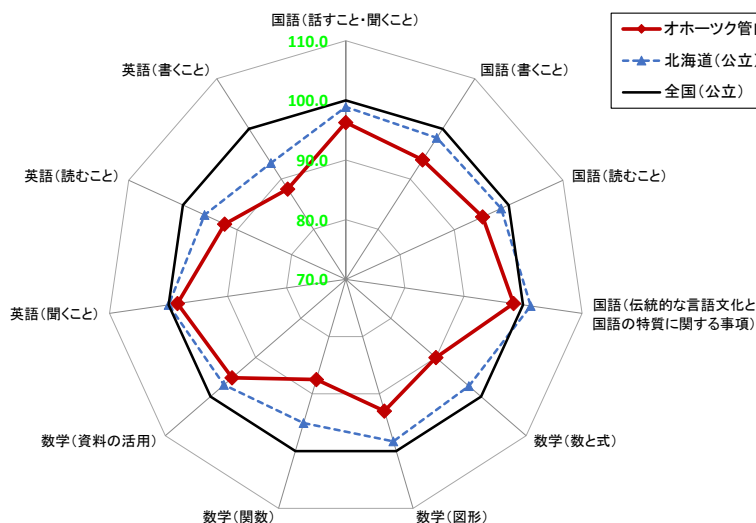
【分析及び改善の方向性】

分析	○ 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合は44.7%にとどまっており、課題である。 ○ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童の割合は30.9%、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童の割合は27.7%で、全国・全道を下回っており、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が課題である。
改善の方向性	○ 管内独自の学力向上に向けた取組である「オールオホーツクで学力向上を！」の内容をカリキュラム・マネジメントの推進に焦点化し、年2回以上の学校教育指導において、チャレンジテストの結果等の数値に基づいた改善状況の把握及び指導助言を行うことにより、PDCAサイクルの確立を図る必要がある。 ○ 「オールオホーツクで学力向上を！」の重点を踏まえて各学校が設定した具体的取組内容と目標指標について、学校教育指導を通して、取組状況を把握し指導助言を行うことにより、組織的・計画的な授業改善を図る必要がある。

■中学校の状況(学校数:49校、生徒数:2,054人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

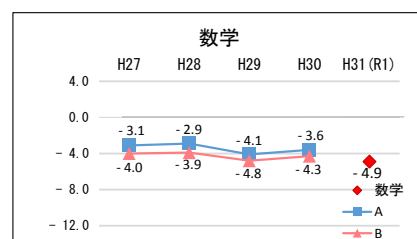
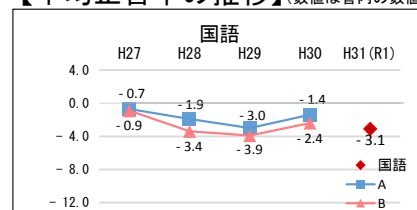


【平均正答率】

	国語	数学	英語
オホーツク	70[69.7]	55[54.9]	52[52.3]
全国	73[72.8]	60[59.8]	56[56.0]

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

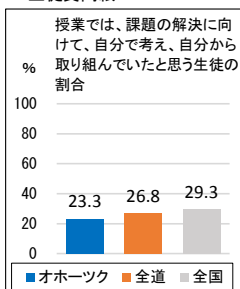


※「管内の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の経年変化

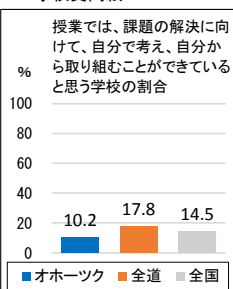
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

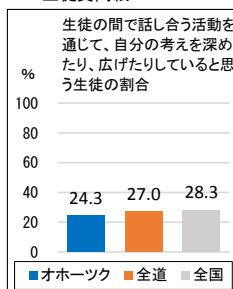
* 生徒質問紙



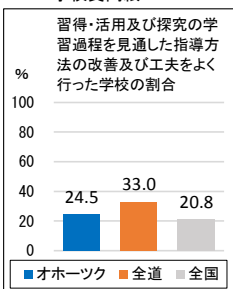
* 学校質問紙



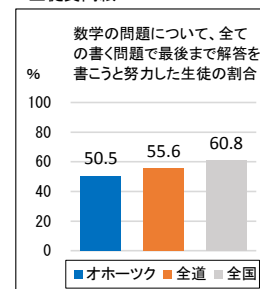
* 生徒質問紙



* 学校質問紙

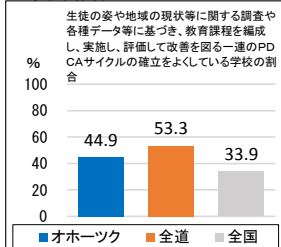


* 生徒質問紙

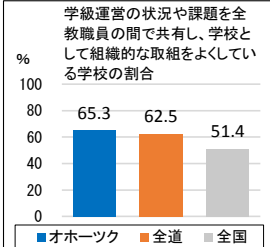


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

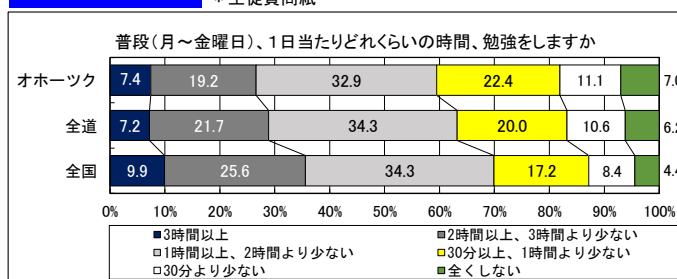


* 学校質問紙



学習習慣

* 生徒質問紙

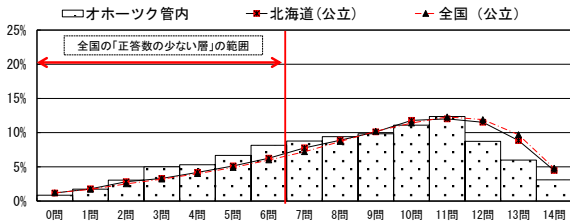


【分析及び改善の方向性】

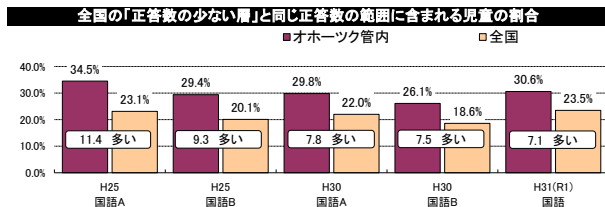
分析	○ 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよんでいる学校の割合は44.9%にとどまっており、課題である。 ○ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた生徒の割合は23.3%、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている生徒の割合は24.3%で、全国・全道を下回っており、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が課題である。
改善の方向性	○ 管内独自の学力向上に向けた取組である「オールオホーツクで学力向上を！」の内容をカリキュラム・マネジメントの推進に焦点化し、年2回以上の学校教育指導において、チャレンジテストの結果等の数値に基づいた改善状況の把握及び指導助言を行うことにより、PDCAサイクルの確立を図る必要がある。 ○ 「オールオホーツクで学力向上を！」の重点を踏まえて各学校が設定した具体的取組内容と目標指標について、学校教育指導を通して、取組状況を把握し指導助言を行うことにより、組織的・計画的な授業改善を図る必要がある。

オホーツク管内

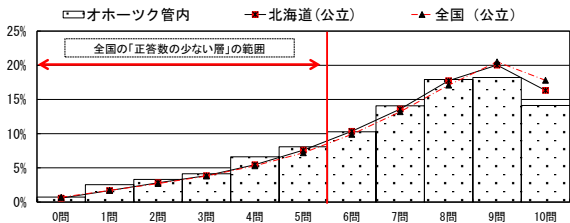
小学校国語					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
オホーツク管内	1,903	8.2 / 14	58.9	9.0	3.3
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	62.8	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4



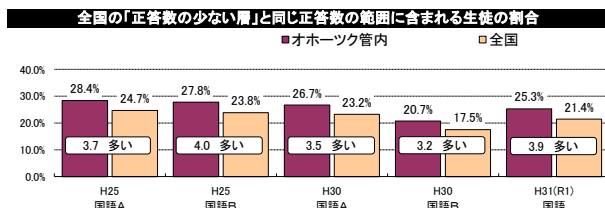
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数



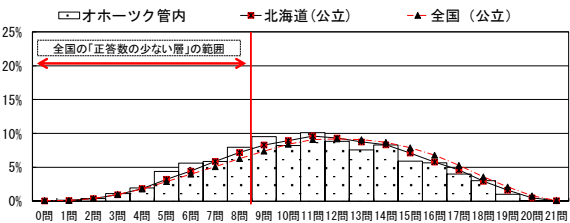
中学校国語					
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
オホーツク管内	2,054	7.0 / 10	69.7	8.0	2.4
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72.1	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4



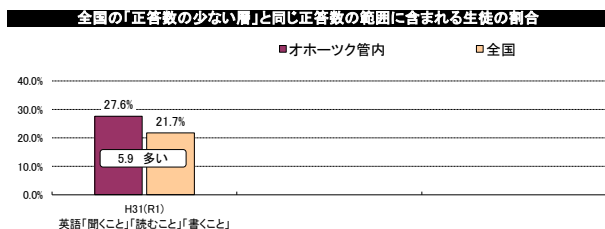
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数



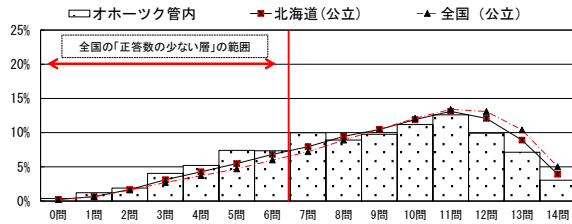
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」					
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
オホーツク管内	2,046	11.0 / 21	52.3	11.0	3.8
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54.2	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9



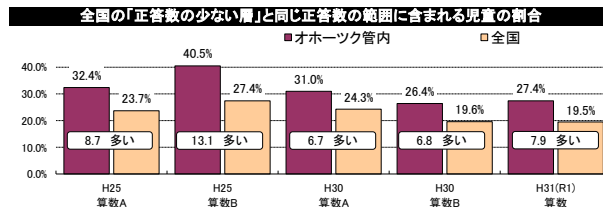
●全国の「正答数の少ない層」は、8問以下の正答数



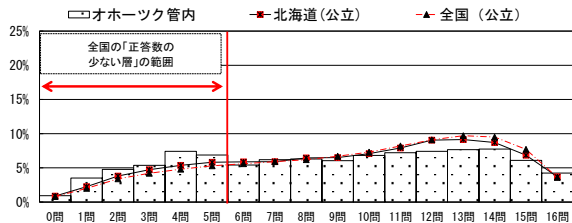
小学校算数					
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
オホーツク管内	1,905	8.5 / 14	60.9	9.0	3.2
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64.5	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1



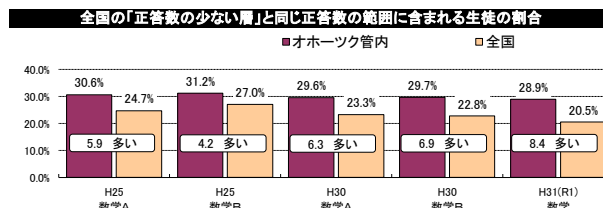
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数



中学校数学					
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
オホーツク管内	2,051	8.8 / 16	54.9	9.0	4.4
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58.1	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2



●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数



【参考】【平成28年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

小学校国語A

オホーツク管内	全国
27.2%	21.3%
全国との差 5.9 多い	

小学校国語B

オホーツク管内	全国
39.7%	29.8%
全国との差 9.9 多い	

小学校算数A

オホーツク管内	全国
34.7%	24.2%
全国との差 10.5 多い	

小学校算数B

オホーツク管内	全国
28.5%	20.0%
全国との差 8.5 多い	